

2017年2月15日

外務大臣 岸田文雄 殿

## ユニセフ次期戦略計画へ結核を含ませることへの要望書

結核による死亡は他のどの感染症よりも多く、2015年において、マラリアとHIVの死亡者を合わせた数よりも多い180万人が結核で死亡しました。そして1000万人を超える人々が新たに結核を発病しました。発病者の内の100万人は15歳以下の子供で、210,000人の子供が死亡しています。

この驚くような統計結果にも関わらず、子供の結核は援助機関や国際組織に見落とされがちであります。結核は子供の主要な死因の1つであり、発病している子供の60%以上が適切に診断や治療がなされていないにもかかわらず、子供の安全、人権、健康を守ることを使命とする国連機関であるユニセフの現行の戦略計画（2014-2017）において、結核は言及されていないのです。

今年、ユニセフは新しい戦略計画（2018-2021）を策定します。我が国は執行理事会理事国であり、ユニセフの戦略計画から結核が抜け落ちてしまっていることを指摘できる重要な立場にあります。執行委員会に対して戦略計画に結核を含ませることに言及をして頂きたく、要望申し上げます。

抗結核薬が開発されて以来はじめて小児結核治療の為に標準処方できました。子供の結核を終息させるには、この疾病に取り組む力強い努力が必要です。ユニセフの戦略計画に結核を含ませることにより、結核はユニセフの保健分野の主要な介入領域に組みこまれることになり、子供の結核対策が世界的な対応へと移行することが可能となるでしょう。

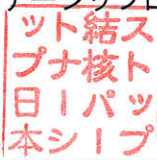
2018年国連ハイレベル会合において、結核に焦点が当てられるこのタイミングは、「結核終息」に向けて、貴重な機会となります。今回のユニセフ執行理事会が、数10万に上る結核による子どもの無益な死亡を阻止し、結核対策の進捗を加速させることができる貴重な機会であることをご理解頂き、ユニセフの戦略計画に結核への対応を追加することを要望、推進していただけますようお願い申し上げます。

ストップ結核パートナーシップ日本

代表理事：森 亨

田中慶司

白須紀子





ユニセフ次期戦略計画へ結核を含ませることへの要望書

<賛同者>

公益財団法人日本ユニセフ協会

理事： 島尾忠男

ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟

会長：武見敬三

副会長：高階恵美子、古屋範子、郡和子

幹事/事務局長：浜田昌良

幹事：阿部知子、川田龍平、古川俊治

参議院

熊野せいし、小池晃、自見はなこ、谷合正明、山本博司

衆議院

逢沢一郎、阿部俊子、石田祝稔、大口善徳、勝沼栄明、工藤彰三、菅原一秀、高木美智代

高橋千鶴子、谷垣禎一、田村憲久、中川正春、中村裕之、富岡勉、平井たくや、

御法川信英、吉川元、笠浩史